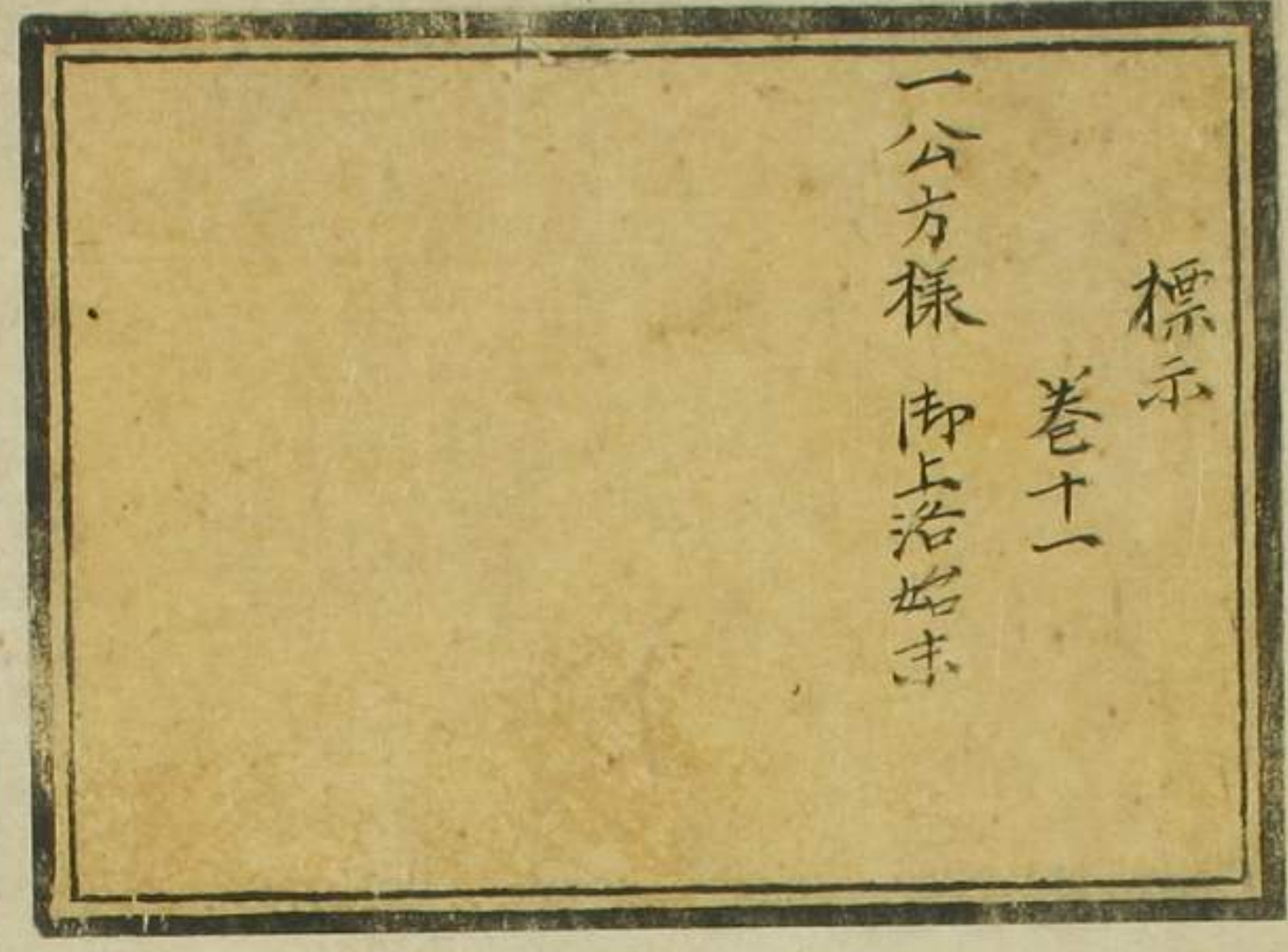




成文

官武通紀

十一



標示  
卷十一  
一公方様 御上洛始末

リ 5  
6419  
10





門 905  
號 6419  
卷 10



官武進紀卷十一

目次

乙方樣以上海始末

中一

探索中

中二

以上海始末中一

中二

中三

同制



東京田大學圖書部  
貯 25.6.5  
藏 赤



多言字... 中一

以上... 作如... 字

中一

以上... 字

中一

以上... 字

中一



以上... 字

中一

以上... 字

中一

以上... 字

中一

以上... 字



凡說 中十

中十一

同新

中十二

來二月 上洛下... 作... 解... 官

中十三

供... 中... 細... 殿... 抄... 官

中十四

上洛... 先... 官

中十五

同... 官

中十六

上洛... 官

同



別紙の写

中ノ十七

本年二月 上洛して長江の舟を備へ松平  
下総守殿等より御札の御返事

中ノ十八

本年二月 上洛して長江の舟を備へ松平  
下総守殿等より御札の御返事

中ノ十九

上洛して長江の舟を備へ松平  
下総守殿等より御札の御返事

左殿の尉殿より御札の御返事

中ノ二十

同殿より御札の御返事

中ノ二十一

同殿より御札の御返事

中ノ二十二

同殿より御札の御返事

中ノ二十三

同殿より御札の御返事

中ノ二十四







第... 抄... 何... 字...

中二十九

同... 抄... 何... 字...

抄... 何... 字...

中三十

以上... 抄... 何... 字...

名... 调... 写...

中三十一

以上... 抄... 何... 字... 作... 何... 字...

中三十二

以上... 抄... 何... 字... 井... 抄... 何... 字...

中三十三

以上... 抄... 何... 字... 井... 抄... 何... 字...

中三十四

风... 说...

中三十五



回新

廿二十六

東去 上流 甚佳 之 亦 甚 多  
者 既 之 之 亦 有 大 同 身 流 等 以 亦  
作 如 之 觸 書 寫

廿二十七

上 流 之 甚 多 亦 有 大 同 身 流 等 以 亦  
作 如 之 觸 書 寫

廿二十八

上 流 之 甚 多 亦 有 大 同 身 流 等 以 亦  
作 如 之 觸 書 寫

廿二十九

上 流 之 甚 多 亦 有 大 同 身 流 等 以 亦  
作 如 之 觸 書 寫

廿三十

凡 須

廿三十一

回新

廿三十二

上 流 之 甚 多 亦 有 大 同 身 流 等 以 亦  
作 如 之 觸 書 寫



尾法考大納之様々  
作如く之を付写

中四十二

凡説

中四十一

同新

中四十五

中二月 以上迄之るは之を留置す

其後之るは作如く之を付写

中四十六

凡説

中四十七

中二月 以上迄之るは之を留置す

其後之るは作如く之を付写

中四十八

撰書之るは之を留置す

其後之るは作如く之を付写

其後之るは作如く之を付写

中四十九

中二月 以上迄之るは之を留置す



為物多手輕... 亦在之上京  
之氣之務之次... 亦在之上京  
其法之微... 亦在之上京

中ノ五ノ

今澤京之上... 亦在之上京  
言波之相平... 亦在之上京  
作也... 亦在之上京

中ノ五ノ

友武通紀卷十一

公方様... 亦在之上京

中ノ五ノ

探索...

上洛... 亦在之上京

作也... 亦在之上京

喜... 亦在之上京

内定... 亦在之上京

伴... 亦在之上京

伴... 亦在之上京







就色之角 上洛之義 作如中下之義 可發子  
其字乃中下

七月廿一日

中二

乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
代義之義 作如中下之義 可發子

一字之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子

六月廿一日

乃上洛之義

乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子

乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子

乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子  
乃上洛之義 作如中下之義 可發子

六月廿一日

乃上洛之義



中江

以上諸君... 大分... 中江... 中江... 中江...

附

中江... 中江... 中江...

出... 中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江...

中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江...

中江... 中江... 中江...

中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...

中江... 中江... 中江...











思ふ事ありし 作上の合伴の誠心昇り上は  
一擧一動の一致 以て武成の徳を振興  
白雲を世の中へ 流す事あり 之を  
を以て上とす 之を以て 宸襟を  
下を美民を安んずるは 必らず  
是も厚なる徳なり 向ふ事あり  
節も各々あり 之を以て 取らざる  
譯も亦あり 之を以て 取らざる  
之を以て 取らざる 作上の徳も  
飽く事あり 之を以て 抽き出さる

如く六月五日 印出

中五

船中務左輔殿 以上迄の用は作

舟中大田名子

六月六日船中務左輔殿 以上迄の用 同定  
印出

中六

同新 舟大田名子 以上迄の用 作上の用

舟中

大田名子 以上迄の用



清月舟 多動定以味後  
船中常大輔 上洛之月舟五動少給 以肉色  
作舟名方向之 上洛之月舟

六月六日

廿七

上洛之月舟 作舟之役人 為舟調字  
上人名在左  
修山十次舟

向之舟

修山十次舟  
林夏三云  
修夏清少  
板板重之助  
柳深勉治

清上洛之月舟 作舟之  
舟之月舟 船中之月舟 酒井如系亮上洛



大目録

弱井山瑞寺

大久保御中寺

三輪定寺

松平如雲寺

小栗忠之丞

三輪定寺

松平上中

松平出中

御目録

神保伯耆守

清中候

三輪定寺

三田瑞

表之右

神保左

三上洛

中務大輔

侍中

六月七日



















向。指。其。上。一。神。統。萬。世。の。安。を。保。ち。下。  
を。下。下。生。民。の。目。を。塗。炭。出。し。端。り。を。と。極。其。  
極。其。之。美。敷。一。一。之。和。親。の。為。を。そ。と。ん。ん。水。府。  
老。公。之。初。之。三。家。其。こ。の。同。こ。の。系。こ。の。中。に。水。和。  
親。存。也。一。願。也。執。政。こ。の。方。吏。之。焦。心。苦。  
思。願。の。禍。害。心。を。成。し。義。を。中。に。備。親。を。上。の。  
彼。を。中。に。指。し。義。を。一。其。而。福。又。功。こ。の。文。海。之。海。津。也。  
上。之。各。各。之。役。の。性。を。身。質。有。り。利。害。未。知。其。源。  
之。不。知。也。不。仕。心。得。也。極。其。之。為。夫。也。と。ん。ん。と。ん。ん。  
也。也。利。弊。を。月。を。逐。ひ。身。を。重。ん。ん。内。也。

一。練。熟。政。事。を。主。事。下。一。卒。竟。未。也。と。ん。ん。と。ん。ん。也。  
一。亦。之。形。を。論。一。實。を。言。也。一。論。論。と。ん。ん。論。と。ん。  
一。宗。之。竟。也。一。皇。威。を。守。内。外。不。之。難。し。と。ん。ん。也。  
一。地。一。大。法。也。自。ら。の。年。の。之。路。を。一。一。此。程。也。と。  
一。之。及。卒。也。と。ん。ん。一。人。材。之。選。擇。之。我。之。川。之。字。  
一。指。其。上。一。指。其。上。之。也。と。ん。ん。一。之。也。と。ん。ん。也。  
一。又。之。子。石。子。之。也。と。ん。ん。也。一。亦。有。り。と。ん。ん。也。と。ん。ん。也。  
一。之。也。と。ん。ん。也。と。ん。ん。也。と。ん。ん。也。と。ん。ん。也。と。ん。ん。也。  
一。也。少。指。之。と。ん。ん。也。一。之。也。と。ん。ん。也。一。定。也。と。ん。ん。也。  
一。上。之。也。と。ん。ん。也。一。之。也。と。ん。ん。也。一。之。也。と。ん。ん。也。

唐。叙。也。を。為。











此等も夫より... 志... 此等... 中

以上... 一... 中... 以上... 中

以上... 入... 中

凡説

將軍... 一... 中















四葉様書の日影

九月九日

八月十七

同封 毛水氣等上は 作付之書封寫

一葉也...

系極丹後也

...

織田忠内古様

九月九日

古様如御也

大津采女也

奉二月

上洛...

海部捕也

大室紀後也

奉二月 上洛...

...

志中様

小山彦原 國光

奉二月 上洛...

松平理波也

奉二月 上洛...

作付...



此之亦之其院富原字號十人既新之由  
組之數十人之供亦之 作舟中使也

九月十日

守十六

以上諸君之言是也 今切亦之海海之言  
各船之船中 爲由之各船之船  
牛之寫

附

舟之寫

蔣二朋

以上諸君之言是也 今切亦之海海之言  
各船之船中 爲由之各船之船  
牛之寫

名之由之 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫

九月十五日

中諸君之言

舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫

舟之寫

實亦之 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫  
舟之寫 舟之寫 舟之寫 舟之寫



在州今切新居之海海 白石船橋二十挺  
之七九丸与中ノ船之石

寛永十一甲戌年 大猷院様 之上海

州今切新居之海海 白石船橋十八挺

舟九与中ノ船之石 白石船橋十八挺

京水脈打小舟士三浦七良八

仕の勢州素石之海海 白石船橋二十挺

長元丸之船之石 白石船橋二十挺

源之舟ノ船之石 白石船橋二十挺

平加三ノ船之石 白石船橋二十挺

以同船仕

九月十五日

中名州与石

九月十七

中名州与石

中名州与石

中名州与石

中名州与石

中名州与石

中名州与石

中名州与石

中名州与石



松原 濱野  
松原 誠中  
稲垣 忠  
本田 三  
寺山 因  
永井 忠  
二月  
二條  
作  
和泉

松原 伯  
物  
松原 甲  
酒井  
稲垣  
寺山 因



京都火災の事... 九月廿八日

二月 上海の... 九月廿八日

二月 上海の... 九月廿八日

二月 上海の... 九月廿八日

九月

廿九



以上洛... 侍... 酒井

今般... 侍... 侍

五部... 侍... 侍

分... 侍... 侍

身... 侍... 侍

忠... 侍... 侍

目... 侍... 侍

授... 侍... 侍

...

...

六月十五日

二十

酒井左衛門尉

...

...

...

...

...

...















以上

九月廿三日

松平如母也

中二十六

以上

去勅至是年

以上

二月

以上

作也

亦月大獻度操

亦月大獻度操

亦月大獻度操

亦月大獻度操

九月廿三日

中二十六

以上

中二十六

雁之月

雁之月

雁之月

雁之月

雁之月

雁之月















是少招仕... 在邑中... 永長...  
...  
...

松平右近將監内

平東健三

九月廿日

以上... 松平... 氏名...

... 等...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...



松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...

松平... 氏...







作也

九月廿首

廿二十二

以上各系内之各代  
井伴掃 秋原殿之持也  
書

本月二日  
以上各系内之各代  
井伴掃 秋原殿之持也  
書

以上各系内之各代  
井伴掃 秋原殿之持也  
書

九月廿日

廿二十二

井伴掃 秋原

以上各系内之各代  
井伴掃 秋原殿之持也  
書











各地益令出... 江戸日報... 中... 江戸... 中...

將軍... 仙... 官...

成九月

二十

日新

多上... 進...

の... 旋...

週... 三...

本... 上...

別... 大...

作... 解...

大... 同...

本... 上... 作... 亦... 物... 廉... 因... 弊... 大... 同... 身... 統... 亦... 概... 宿... 弊... 大... 同... 身... 統... 亦... 概... 宿... 弊...







但此年中少者亦十人教九人  
今日足以下之儘以上

一 少者亦十人

但此年中少者亦十人教九人

同日之儘以下

一 少者亦十人

但此年中少者亦十人教九人

少者亦十人教九人教減少以下之儘以上

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

一 十月

但此年中少者亦十人教九人

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也

大同年全同年上言下言也











風説

一 櫻柳 出月 初旬迄 上京 出月

二 櫻柳 凡 海 任

三 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

四 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

五 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

六 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

七 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

十一

日新

一 櫻柳 出月 初旬迄 上京 出月

二 櫻柳 凡 海 任

三 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

四 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

五 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

六 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

七 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

八 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

九 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄

十 才 櫻 上 洛 迄 上 京 迄 上 京 迄



るるに留る中 ありては 三六毎に 五生に 四の 生  
のこも 一に 江戸に 戦争に 地と ありて 中  
夷織に ありて ありて ありて ありて ありて ありて  
志に 志 悲 歎に ありて ありて ありて ありて ありて

中 四十二

本年二月 以上 江戸に ありて ありて ありて ありて

招尾 張子 古 綱 之 様 上 有 作 記 之 事

付 写

尾 張 子 古 綱 之 様

本年二月 以上 江戸に ありて ありて ありて ありて

此 作 色 小 紙 之 事 ありて ありて ありて ありて ありて ありて  
ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

十二月 朔 日

中 四十二

風 流

招 平 河 渡 寺 殿 招 子 ありて ありて ありて ありて ありて ありて

当 地 分 之 先 上 京 之 供 之 仕 方 有 作 記 之 事

至 妙 曲 河 州 始 末 之 詳 あり

中 四十二

同 割



一橋様 十二月十五日 上京より

十二月

十二月十二

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より

十二月 上洛より



十二月十六日  
凡说

一様様とす日明高何日日本橋と海と舟  
列玉るる易習美性去影色は井と野さ

十二月十六日

十二月十七日

十二月十七日  
水戸中御三殿  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿

十二月十七日  
以上は...  
水戸中御三殿

振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿

十二月十八日

十二月十八日

十二月十八日  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿

十二月十八日  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿  
振水戸中御三殿



隠後平をいしよへ上京もてしはは 比沙  
法より

十二月

ふらうし海を 作れりつりし上京は何  
て事ぞ死ねり

忠照

十二月廿日

侍家

甲辰十九

十二月 上流しんらそ何ぞなる

拍子自燈に 抄本を先ん上る

兼之掃白 抄本を先ん上る

拍子自燈に 抄本を先ん上る

抄本を先ん上る

上京供養に 抄本を先ん上る

らる拍子自燈に 抄本を先ん上る

上京供養に 抄本を先ん上る

中下流に 抄本を先ん上る

十二月 廿日



十三 中 五 十

多滞系之止 公方様 之上 洛之 結文 下 云

向之 松系 系 豊 志 之 攝 犯 前 之 處 下

之 作 所 之 之 身 写

松系 犯 之 之 身 写

松系 系 豊 志 之 攝 犯 前 之 處 下

之 作 所 之 之 身 写

之 作 所 之 之 身 写

之 作 所 之 之 身 写

之 作 所 之 之 身 写

片寄 折 五 市 写



